

京田辺市上下水道事業経営審議会(第1回)議事録

日時

平成30年11月28日(水) 午後3時～午後5時

場所

京田辺市上下水道部事務所 2階 大会議室

出席者

山田会長、米田副会長、大嶋委員、山中委員、赤尾委員、益田委員、小長谷委員、杉本委員、川嶋委員

(会長、副会長を除き、京田辺市上下水道事業経営審議会規程第2条に示す第1号委員から第3号委員の順、各号内で順不同)

欠席者

太田委員

事務局

磯谷公営企業管理者職務代理者、伊東上下水道副部長、上杉経営管理室担当課長、村上上水道課長、栗田下水道課長、尾崎経営管理室企画経営係長、出口経営管理室主事

事務局補佐

株式会社日水コン3名

傍聴者

1名

議事

- 1 開会
公営企業管理者職務代理者から委員に委嘱状を交付
- 2 挨拶
市長から挨拶
- 3 委員の紹介
- 4 関係職員等の紹介
- 5 京田辺市上下水道事業経営審議会について

事務局から説明

6 会長と副会長の選任

事務局より定足数の確認を行うとともに、審議会規程第3条第1項の規程に基づき、委員の互選により、会長に山田委員、副会長に米田委員が選出された。

7 諮問

会長が公営企業管理者職務代理者から諮問を受けた。

8 審議事項

(1) 審議会の会議の公開・非公開について

審議会の会議は原則公開することを決定した。

(2) 上下水道事業の現状について

事務局から以下の内容を説明

〔水道事業の現状〕

- 水道の役割
- 水道事業の沿革
- 組織の状況
- 水道施設の状況
- 水道の財政状況
- 経営比較分析

〔下水道事業の現状〕

- 下水道の役割
- 下水道事業の沿革
- 組織の状況
- 下水道施設の状況
- 下水道の財政状況
- 経営比較分析

【主な質疑】

〔水道事業の現状〕

(委員) 水道の水源地は河川から直接取水するのではなく、井戸水ですべてまかなっているのですか。

(事務局) 北部の水源地は深井戸と浅井戸を水源としており、南部の方は京都府営水道からの受水を主な水源としています。

(委員) 全水源水量のうち京都府から受水している水量の割合はどれくらいですか。

- (事務局) だいたい人口の三分の一程度の割合です。
- (委員) 井戸水はたくさん湧き出してくるものなのですか。
- (事務局) 地域によっては湧き出してくる地域もあります。京田辺市には木津川がありますので、その伏流水を水源としてくみ取ることができるという環境があることは確かです。ただし、井戸は経年的に使用すると目詰まりして揚水量低下します。その場合は別の場所で井戸を掘り替えて水量を回復させる場合もあります。
- (委員) 平成27年度から平成28年度にかけて技術職員が減っている理由は何ですか。
- (事務局) 主に定年退職によるものです。その他に給水係の技術職員が対応していた窓口業務を事務職員が代わって行うようになったという要因もあります。
- (委員) 他の市町村における分担金の状況を教えてください。
- (事務局) 分担金を取っていないところもあり、金額も市によって異なります。
- (委員) 京田辺市の水道財政は良好であるように見えるが、費用のかかる管路の更新が本格的に始まると財政が厳しくなるかもしれません。
- [下水道事業の現状]
- (委員) 農集排事業とは何ですか。どれくらいの規模ですか。
- (事務局) 山間部の小規模な下水道と考えてもらったらいいと思います。市内に3箇所あり、大きいところで200人、それ以外は150人程度の規模です。それぞれ大きな浄化槽のようなものを設置しています。
- (委員) 回収率が悪いとありますが、上下水道いずれもですか。銀行口座引き落としではないのですか。
- (事務局) ここでの回収率は、料金収入で必要経費を回収できていないという意味です。使用料に対する回収率(収納率)は、98~99%です。
- (委員) 地方債の利率を教えてください。
- (事務局) 下水道では現在0.1%です。過去には8~9%の高利率もありましたが、7%以上のものは国の優遇措置を利用し、繰上償還を行い解消しています。
- (委員) 資料9ページの下水道使用料金は、いつから改定していないのですか。
- (事務局) 昭和61年3月に下水道の供用を開始して以来、一度も値上げ

しておりません。それにつきましてはいろいろな事情はありますが、下水道の普及促進や公共的な役割である公有水面の水質浄化等の重要なことがあります。ただし、平成26年におおむね建設が完了したので、それ以降は経営健全化の検討をさせていただいている状況です。

- (委員) 下水道での処理水の水質レベルは水道と同じくらいですか。
- (事務局) 水道とは全く違います。河川に放流しても許可される基準まで処理します。
- (委員) どのような処理をするのですか。
- (事務局) 水槽で沈澱させて、薬品を投入し、バクテリアで分解させるなどの処理を行っています。時間と手間と場所が必要となります。
- (委員) 人手もいるので、そのような費用がかかるということですね。
- (委員) 下水道はほとんどすべての人が使うもので、本来は公共施設として、市民サービスとしてやってもいいものです。だけど国も財政状況がよくないので、もう少し料金をとって自分たちで経営しなさいという流れになっており、国の厳しい指導がある。それで京田辺市は一般の税金と使用料でまかなう方法を選択してきたということです。
- (委員) 仮に民営化する話があるなら、下水道も含めたものとなるのでしょうか。
- (委員) 下水道は赤字経営なので、民間も経営を引き受けないでしょう。
- (委員) 下水道がしっかり機能して経営が続かないと意味がない。事業者によっては、国が繰出してもよいといっているものまで出さないで、すべて料金化しているところもあると聞きます。
- (委員) 経営戦略では、どの時点での経営状態を考えるのでしょうか。京田辺市は人口ボーナス期にあり、恵まれています。これがオーラス期に耐えぬくことを考えなければならないので、どの時点を想定するかを明確にしておくべきです。
- (事務局) 国の考え方では、50年先を見据えて10年間を切り出して経営戦略を策定することになっています。そこで、本審議会でも同様の視点で将来人口予測などを提示したい。
- (委員) 既に人口減少を始めている都市の状況も先行事例として参考にすればよいと思います。

9 今後のスケジュールについて 事務局から説明

1 0 公営企業管理者職務代理者挨拶
公営企業管理者職務代理者から挨拶

1 1 閉会

以上